

身近な移動手段『自転車』を まちづくりに生かす



たかの のりお
高野 律雄

ふちゅう
府中市長(東京都)



みうら もとひろ
三浦 基裕

さど
佐渡市長(新潟県)



かん りょうじ
菅 良二

いまばり
今治市長(愛媛県)



みやもと かずひろ
宮本 和宏

もりやま
守山市長(滋賀県)

司会・コーディネーター

ふじい
藤井 さやか

筑波大学大学院准教授

環境負荷の低減、健康増進、交通混雑の緩和、災害時における交通機能の維持、サイクルツーリズムの推進による観光振興など、さまざまな側面から注目される自転車の活用。平成28年には「自転車活用推進法」が成立、平成30年には「自転車活用推進計画」が閣議決定され、自転車の利用環境の整備が本格的に図られることになりました。自治体としても、各都市において自転車を活用したまちづくりが進められるとともに、平成30年11月15日には「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会」が設立されています。

座談会では自転車を活用したまちづくりを推進する都市自治体にご出席いただき、取り組みの内容、まちづくりにおける効果、市民への利用促進の方法、自治体間連携の重要性などについて幅広くお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)



島の特性を生かして、
自転車と地域資源を
組み合わせた、体験型観光の
商品開発にも
取り組みたいですね。

三浦 基裕
佐渡市長(新潟県)

全国で進む、
自転車を生かしたまちづくり

藤井 本日の座談会のタイトルにあるように、自転車は市民の身近な移動手段である一方、近年は有効な観光資源としても注目されるようになってきました。それでは、各都市が進める自転車を生かしたまちづくりについて、その内容をお聞かせいただきたいと思っています。

三浦 佐渡市は毎年5月「スポニチ佐渡ロングライド210」以下、「ロングライド」というサイクリングイベントを開催しています。四つのコースを設けていますが、島内をほぼ一周するAコースの距離は国内最長クラスの210kmです。

当初の参加者は900人程度でしたが、今では3千人以上が参加する人気のイベントに成長しました。競技レースではないため、制限時間内にゴールした方には完走証をお渡しするものの、タイムや順位はあえて記載しません。気軽に参加し、自分のペースで楽しみながら走ることを主眼に置いたイベントです。

島内には佐渡金山をはじめ、歴史的な資源が多いこともあり、従来、佐渡市を訪れる観光客は高齢層が中心でした。しかし、近年はロングライドをはじめとしたスポーツイベントの開催が定着したこともあり、多くの若い世代が佐渡市を訪れるようになりました。大会に備えて試走に訪れるサイクリストもいますし、最近では自転車を持ち込んで、島内をサイクリングする外国人観光客も増えてきました。

ただし、課題もあります。自転車レーンの整備がほとんど進んでいないこともその一つです。安全に自転車で走行してもらうためにも自転車レーンは不可欠であるため、現在、その整備に向けて、新潟県とも話し合いを始めたところです。

高野 府中市はおよそ29kmの市域の中に、14もの鉄道駅が設けられており、多くの市民が通勤通学のために、駅まで自転車を利用しています。そうした市民ニーズを受けて、駅周辺の自転車駐輪場の整備を進めてきた結果、平成21年に約880台だった違法駐輪の数は、平成30年には約150台と、大きく減少しました。



参加者3千人を超えるサイクリングイベント「スポニチ佐渡ロングライド210」(佐渡市)

自転車による事故対策も大きな課題です。府中市における自転車の交通事故は、全体の約4割を占めていることから、子どもや高齢者を対象とした安全教室の開催に加え、自転車の安全な通行を促すために、車道の左側端に「自転車ナビマーク」を付けるなどの対策を進めています。

また、市内の多摩川岸には、全長9.4kmに及ぶ遊歩道「府中多摩川かぜのみち」が整備されています。自然を感じながらサイクリングやウォーキングが楽しめる、市民の憩いの場ですが、中には危険をかえりみず、猛スピードで走行するサイクリストもいます。どのように市民の安全性を担保するか、頭を悩ませているところです。

こうした課題もありますが、東京2020オリンピックの自転車競技ロードレースは、府中

オリンピックの 自転車競技ロードレースは、 府中市がスタート地点。 市民とともに大会を盛り上げて いきたいですね。



高野 律雄
府中市長(東京都)

市がスタート地点になることが決まっていますので、市民とともに準備を重ねて、大会を盛り上げていきたいと考えています。

宮本 守山市は標高差22mと平たんで、自転車での移動に適した地形を有しています。このような特性を生かして、守山市では自転車を活用したまちづくりを進めています。市、県、国が連携する形で、自転車道や自転車走行帯を設けるなど、自転車で走りやすい環境づくりに努め

てきたほか、駅前には約300台の民間のレンタサイクルと約2千台の民間駐輪場があります。月契約で利用できる便利なレンタサイクルも実施し、さらに自転車から路線バスへ乗り継ぐための自転車駐輪場(BTS)も市内に6カ所設置しました。

加えて、スポーツ自転車も含めた「自転車購入補助制度」も整え、市民の自転車利用の促進を図っています。また、平成28年6月には、行政、市民、企業と連携して「びわ湖守山・自転車新文化推進協議会」を設立。同会は、自転車による健康増進、観光振興、経済活性化などを目指す中、市内の名所を自転車で巡る「モリイチ・スタンプリー」などのイベントも開催され、地域でも自転車利用の機運が盛り上がっています。

近年は自転車を軸とした観光振興として、琵琶湖を自転車一周する「ビワイチ」の推進にも積極的に取り組んでいます。県内外の「自治体間連携」、国際的な自転車メーカーGIANT社をはじめとした「民間企業との連携」、そして、琵琶湖を横断できる漁船タクシーの運行などの「琵琶湖の特徴を生かした取り組み」を軸に、各種施策を進めています。ビワイチサイクリストの増加や、市内への民間投資の進展など、目に見えて成果が上がっています。

菅 本州と四国を結ぶ「本州四国連絡道路」には三つのルートがありますが、最も西側に位置するのが、尾道市から今治市までの瀬戸内海の島々を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」(以下、「しまなみ海道」)です。ほかの2ルートとは異なり、島民の生活道路を兼ねているため、橋の部分に自転車歩行者専用道路が併設されているのが特徴です。今でこそ「サイクリストの聖地」として、国内



東京2020大会に向けた機運醸成イベントで大会コースの一部をロードバイクで実走体験(府中市)

外から多くの人が訪れるようになりましたが、開通当初は、それほど知名度は高くありませんでした。やがて、愛媛県知事の尽力もあり、県をまたいでの協力体制が確立。愛媛・広島県双方でのレンタサイクル事業が行われるなど、自転車を核にした観光振興が進められました。

さらに平成24年には、GIANT社を創業した劉金標氏と関係首長で、しまなみ海道を自転車で走行する機会にも恵まれました。これが大きな話題になり、しまなみ海道の知名度はさらに向上しました。

その後、守山市、名護市など、自転車を活用したまちづくりを行う市長と交流する中で、さらに同じ志を持つ全国の首長と連携を深めたいと考えるようになりました。昨年の11月には、その思いを「自転車を活用したまちづくりを推

進する全国市区町村長の会」の結成という形で、実現させることができました。

自転車と地域資源を いかに組み合わせるか

藤井 それぞれの都市で自転車を積極的にまちづくりに活用していることが、よく分かります。実際にどのような効果が現れていますか。

高野 府中市は奈良時代に国府が置かれた地で、市内の至るところに史跡があります。また、美術館、博物館などの文化施設も充実しています。市としては従来から、市内外の方にこれらの文化資源を見てもらいたいと考えていましたが、現在、その実現に向けて大活躍しているのが自転車です。

市内の民間企業がシェアサイクルを始めたこ



GIANT社 劉金標会長(当時) および滋賀県経済会とのピワイチライド(守山市)

とで、市外から来た方も、手軽に自転車で市内を巡ることができるようになりました。周辺自治体にも広がりを見せていますし、各ステーションで乗り捨て可能なので、利便性が高いと利用者からも好評です。

宮本 自転車は基本的にスローな乗り物ですから、自由に寄り道できる点がいいですね。まちに点在する地域資源を見て回るのいうってつかけの乗り物です。さらに、自転車を走らせているとお腹もすきますから、ご当地グルメを食べたく

自転車を軸とした 観光振興として、琵琶湖を 自転車で一周する 「ピワイチ」の推進に、 積極的に取り組んでいます。



宮本 和宏
守山市長(滋賀県)

なる。すると地域のお店に立ち寄りやす。

そのように考えますと自転車は単なる乗り物ではなく、地域に存在するさまざまな資源を関連付けながら、地域経済の活性化を図ることができる貴重なツールだと思っています。

菅 しまなみ海道の最大の資源はやはり景観です。自転車で乗って、風を感じながら眺める島々の風景はまさに絶景ですよ。さらに、瀬戸内海は魚もおいしい。サイクリングで訪れた観光客には鮮度抜群の海産物もぜひ召し上がっていただきたいですね。

三浦 佐渡市は、特定有人国境離島地域に指定されているため、観光振興の取り組みなどに交付金も活用できます。今後は、島の地域特性を生かして、自転車と地域資源をうまく組み合わせ、体験型観光の商品開発にも取り組んでみたいですね。

成功の鍵を握るのは市民のおもてなし

藤井 自転車を観光振興に活用するためには、多くのサイクリストをお迎えする、市民の協力も必要になると思います。

三浦 佐渡市では、ロングライドを含めて、島外から参加者が訪れる規模の大きなスポーツイベントが四つあります。いずれも、市民がボランティアで運営の手伝いや、選手の応援に努めています。

さらに、島内の宿泊施設には限りがあるために、スポーツイベントの参加者を自宅に泊める市民も多くいますし、参加者がフェリーでお帰りになる際には、数十人の市民が紙テープでお見送りもしています。おかげさまで、確実にリピーターが増えていますよ。

自転車新文化こそ 地方創生の原点です。 全国の首長さん、 共に頑張りましょう!!



菅 良二
今治市長(愛媛県)

菅 今治市も同じですね。しまなみ海道を舞台に行われる国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」でも多くの市民が熱心に応援されていますよ。

また、市民・民間企業が中心となって、サイクリングの休憩スポット「しまなみサイクルオアシス」の開設にも日常的に取り組んでいた地元の地域ですが、地元のおもてなしがしっかりと軌道に乗ってきたと、私も手応えを感じているところです。

宮本 サイクリストをお迎えする上で、サイク

ルオアシスのような休憩スポットは非常に重要です。滋賀県でも、県が民間に働き掛ける形で整備を進めています。市内でもサイクルラックを独自に設置する店舗は増えてきましたし、市民がサイクリストに声掛けをするなど、日常的な交流も進んでいます。

三浦 佐渡市でも、自転車を島に持ち込む観光客が増えたことに伴い、サイクルラックを設置しようとする声も出てきました。佐渡は竹細工が伝統工芸ですので、中には竹製のユニークなラックを作ろうとする動きもあります。

高野 オリジナルの自転車競技ロードレースでは、選手たちは府中市の中心街を通過します。ボランティアの募集など、取り組みなければならぬことは山積していますが、何よりも欠かさないのは、市民の皆さんの盛り上がりです。温かい気持ちで選手や関係者をお迎えできるように、おもてなし体制の構築に努めていきたいと思っています。

宮本 民間企業との連携も重要です。幸いなことに、守山市が行う自転車を活用したまちづくりに関心を寄せる企業も多く、効果的な方策をよく提案していただいています。スマホアプリを活用したスタンプラリーなど、民間企業との連携により実現した取り組みもあります。

菅 民間企業の協力を得るには、トップの理解を得ると早いですね。今治市でも、ある地元の大企業トップが自転車のファンになったことで、社内での普及も相当に進んでいるようです。

市民の自転車利用を促進するために

藤井 一方で、環境にやさしい乗り物という特性を考えると、市民への自転車利用の促進も重



今治市と尾道市を結ぶ「しまなみ海道」(全長約60km)の絶景を舞台にサイクリング(今治市)

要だと思っています。

宮本 先ほど申し上げた自転車購入補助制度は非常に有効ですね。毎年コンスタントにご利用いただいていることもあって、週末になると親子や仲間同士でサイクリングを楽しむ方々の姿をよく見かけるようになりました。

三浦 佐渡市は面積も広いし、冬は風も強い。さらに起伏がある地形なので、なかなか自転車の利用が進まないのが現実です。E-Bike(電動アシスト自転車)の購入補助など、ある程度ターゲットを絞った補助制度も必要かもしれません。

高野 自転車の駐輪場整備に力を入れてきましたが、利便性という面ではまだ課題があります。土地の効率的な利用のため、地下にも駐輪場を整備していますが、市民からはもっと楽に上げ下げできるようにしてほしいとの声も寄せ



藤井 さやか
筑波大学大学院准教授

られています。自転車の利用促進を図るためには、誰もが使いやすい駐輪場整備にも取り組んでいかなければいけません。

宮本 市でアンケートを取ったところ、約7割の市民が通勤時に自家用車を利用しているとのことでした。これをいかに自転車やエコな移動手段にシフトさせるかが課題ですね。市役所内でも自転車利用を呼び掛けていますが、まだ十分ではありません。まず、「隗より始めよ」で、市役所が率先して自転車通勤を始めなければと考えています。

菅 今治市では職員のサイクリング熱は非常に高いですよ。通勤に自転車を使う職員も多いし、私自身も職員と一緒にサイクリングしています。当初は採用から3年目までの若い職員と、定期的に通走の機会を設けていたのですが、段々と部長、次長、課長クラスにまで広がってきました。

高野 私も天気の良い日などには、公務でも自転車で移動する 때가あります。車と違って、市民と身近に触れ合えるのがいいですね。

菅 そうですね。私も市内で開かれる休日のイベントなどには、時間さえ合えばトレーニング

も兼ねて自転車で向かうようにしています。そうすることで、市民との距離がぐっと近くなるのです。

自治体間連携を活発に

藤井 最後に、自転車を活用したまちづくりを推進するに当たって、自治体間の連携の重要性についてもご意見をお聞かせいただきたいと思っています。

宮本 「魅力的なコースがあれば走ってみたい」。これがサイクリストの習性です。現在、国はナショナルサイクルートのルート設定を検討していますし、千葉県から和歌山県に至る「太平洋岸自転車道」の整備も計画しています。これを絶好の機会として、ぜひ地域ごとに自治体が連携し、サイクルートの整備、受け入れ態勢の構築などに取り組むべきだと思います。

三浦 昨年のロングライドの参加者の一人は、仙台市に居住されているのですが、佐渡までの行き帰りも、自転車で往復していました。サイクリストはそれくらい自転車で走るのが好きなのです。今後は全国の自治体とつながり合いつつ、自分たちの持ち味や特徴を効果的に発信し、各地でサイクリストをお迎えしながら、地方創生を実現できればと考えています。

菅 大きな予算を投じずとも、社会課題の解決や、地域活性化を図れる点で、自転車を活用した取り組みの利点の一つです。せっかく全国組織が立ち上がったわけですから、全国の市区町村長と力を合わせ、自転車文化の普及、拡大に向け、精いっぱい努めていきたいと思っています。

高野 オリンピックの自転車競技ロードレースは、東京の多摩地域にとどまらず、神奈川県

山梨県、静岡県内も走ります。単なる「点」の集まりではなく、しっかりとした「線」となるよう、沿道の自治体と連携を深め、必要な取り組みを進めていきたいと思っています。

藤井 各市長のお話を伺って、自転車が持っている可能性の大きさを改めて実感しました。「環境」「健康」「観光」など、さまざまな分野で効果を示す自転車は、まちづくりに欠かせない貴重なツールだとよく分かりました。今後とも、皆さま方がリーダーとなって、自転車を活用したまちづくりがさらに全国各地で展開されることを願っています。本日はどうもありがとうございます。

(平成31年4月10日、全国都市会館にて開催)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は7月号に掲載予定です。

